

—我孫子の景観を育てる会—

# 景観あびこ

## 景観とは

景観とは、「見える景色」全てのことである。景観ということばには、受身でただ漠然とながめる風景や景色と異なり、人の意思が加わる人工的なニュアンスがあり、人間が自分の意思で積極的に何かを見ようとしている様子がうかがえる。街をデザインする対象として考えてみると、「景観」ということばが使われるときには、視覚環境を心地よくコントロールしていこうとする意識を持って見るのである。つまり、街を美しく見せたい、楽しく見せたい、住みやすい豊かな街に見せたい、そうした気持ちが含まれている。

街を美しく見せるためにはどうしたらよいか、それが景観を考えるキーワードである。そのため、個々の建物をできるだけ芸術的に考えるのも一つの方法であり、ヨーロッパのように屋根の色、窓の形、塀の形や高さまで規制して全体を統一するのも方法のひとつである。日本では、歴史的価値のある街並みを除いて積極的なコントロールをしてこなかったが、最近になってやっと、せめて屋外広告の規制を強化しようとか、質感の高い街並み造りをしようといった機運が高まってきた。

景観造りの概念には見逃せない大きな特徴がひとつある。それは、個人のわがままな欲求を公的な価値観のために制限することである。今までは短絡的で

## 藝崎 英夫(会員)

個人的な考え方が多く、なかなか全体の利益は理解されなかったが、海外への旅行者が多くなって外国の街並みの素晴らしさを見てきたりして、その良さを理解できるようになって街造りへの計画的な考えができるようになってきた。

建築家やデザイナーそしてその依頼主は自分が作るものを目立たせようとしがちだが、それはひとつのエゴイズムであり、人を引き立たせるための建物、風景を見せるための建物があってもよいのではないか。物を作るのは目的ではなく、物によって何かを獲得する、これが真の目的である。

街の景観造りにはこれが特に重要で、一人の建築家の作品が他を圧して知らしめることより、街全体のイメージが統一され強化されることのほうがもっと重要である。

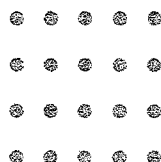
街の中にベンチを設置するとき、デザイナーは座りやすく、美しく、壊れにくく、地域の特色を生かしたデザインをしたいと考えるが、私達はしばしば、岩や木の切り株、芝生などを心地よいベンチ代わりにする。休憩場所が必要だといってすぐにベンチを置くという発想は短絡的すぎる。

環境の特徴や利用者の行動を中心に考えれば、街の設計方法が少しずつ見えてくるだろう。

## 平成15年度総会のお知らせ

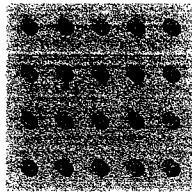
昨年度は「水辺・ウォーターフロントでの景観作りの考え方」(日本大学教授・横内憲久氏、「第4回景観づくりシンポジウム」と2つの大きな催しを市と共催で行い、また日立研修所の庭園開放に漕ぎつけることが出来ました。6つの部会もそれぞれ活動しています。

日時 平成15年4月19日(土) 10時~11時  
場所 我孫子市役所分館2階大会議室



## 目次

景観とは	1
総会のお知らせ	1
ゴルフ倶楽部公開	2
街並考(II)	2
「我孫子再発見」写真展	3
日立研修所公開を終えて	3
インタビュー	4



## 景観を育てる会主催 我孫子ゴルフ倶楽部の一部を公開

昨秋の日立総合経営研修所庭園公開に引き続き、当会主催により、国内でも、有数の歴史・伝統のある名門ゴルフ場を我孫子ゴルフ倶楽部のご好意により、13番・16番を公開します。桜便りによりますと、ちょうど見ごろのようです。桜には少し早い場合でも、ゴルフ場からの手賀沼は絶景です。

日時 3月31日(月)11時～15時(小雨中止)

駐車場 五本松運動広場駐車場(岡発戸)

対象 市内在住・在勤・在学の方500人(応募者多数の場合は抽選)

注意 喫煙・飲食・ペット・ゴルフ等の球技は禁止  
応募方法・問い合わせ

270-1192(住所省略可)市役所都市計画課

景観推進担当TEL7185-1111内578へ

★小雨の場合でも中止です。公開の可否は、当日午前8時30分からテレホンサービスTEL7185-5000、コード番号849でお知らせします。

## 街並考(Ⅱ) 一街並は哲学一

街並の美は「定点」では意味をなさない。近隣の建物、樹木や空間と調和し連続する区間が必要なのである。最小100メートルぐらいは歩きながら鑑賞をしたいのです。

その中で定点の美は蘇ってきてくるのではないのでしょうか。では対象の「街並とは」定義が在るのでしょうか？残念ながら、其れは私には未だ判りません。街並の通念なら広辞苑にまかせます。

私の感覚からは、人々が生活に必要な物体や構築物が行儀よく並んでいる地帯です。そしてその光景が、美であるか、醜であるか、汚であるかは景観との関係です。因みに、丸の内のビル街、京都の寺町は壮観です。飛驒の宿場や小樽の運河もあれば、夜は奇麗だが昼間は目を背けたくなるような新宿の歌舞伎町もあり、田園を匂わせる我孫子の街道もあって、みんな生い立ちが違うのですから、その形・姿のあり方は様々です。人工美在り人為的自然美も在り、その多様性には限りが無いが、それでいて夫々に風格と個性はアピールしているのです。見事です。

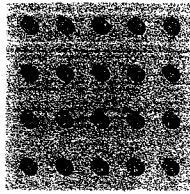
然して、観光の為の街並か、住む人の慰めの為いで

## 街並班 高野瀬 恒吉(会員)

生まれた街並か、その目的は結果論として成り立っているのではないのでしょうか。要は街並の表情は其処の住人の活力の表現であり、そこから滲み出るものがあるから有意義なのでしょう。

私は、かつて炭鉱に住んだ事が在ります。炭住(炭鉱従業員の集合住宅)が在りました。炭住は一定の規格のものが機能中心に一定の法則で並んで建てられたもので街並の美からは程遠いものでしたが、裏のポタ山(石炭を掘ったとき一緒に出てくる石を選別して選別した石を捨てて山になったもの)に登って俯瞰すると、広大な平野のなかで夕日を浴びた炭住が、山の緑に調和して整然と並び、のびのびとした素晴らしい景観を見せてくれた事が在りました。

時と場合と環境に抛り、人の判断は変わるのでしょうか。街並と景観の因果関係は考えれば考えるほど難解です。これは哲学であるかもしれない？……と独白がでます。だから、「街並観」は面白いのでしょうか……ともあれ既得の概念は一度ブチ壊し、改めて考え直さねばと反省するところです。



## 「我孫子の景観再発見」写真展実施

吉澤 淳一 (会員)

昨年12月に実施した、「第4回景観づくりシンポジウム」ワークショップで展示した「我孫子再発見」写真展を、この程、「我孫子の景観再発見」としてリニューアルし、2月13日から25日までの約2週間、シティアマンションギャラリーにおいて展開した。シンポジウムが僅か1日の実施であったのに比べれば、画期的なロングランであった。

この催しはシティアの巨大チラシに3回、イースト情報をはじめ、幾つかのタウン紙に紹介された。これは、会場提供のシティアマンションギャラリーの、タイアップによるものであるが、多くの観客にきていただいた点で効果的であった。当会としても、カラーポスターを近隣センターやサポートセンターに貼り、600枚のチラシを配る等、会員総出で告知にあたった。

展示は、まちなみ景観に焦点を合わせ、①我孫子の原風景を訪ねる「昔の我孫子はどんな顔」、②現代の我孫子の日常景観を探る「今の我孫子のここは何处」③近未来の我孫子の快適空間を電線類地中化に見出す「見上げてごらん我孫子の空を」の、3つの局面で演出した。

まちなみ景観は、市民一人一人の意識如何で、その良し悪しの考え方が変わっていくもので、この企画

はその所が狙いであった。

来場者のご感想を紹介しよう。「昔の我孫子」…古きよき町・まちの繁栄・素朴な顔・緑豊かな美しい顔、「今の我孫子」…近代的・人情豊か・我孫子にもこんな美しい風景が、「近未来の我孫子」…電柱が無いとどんなに良いまちになるか・透き通った青空、感動した・すぐでなくても良いから、ゆっくり少しずつ地中化をすすめて・電線の面白さ、無くなると少しさびしいのは何故かしら、等です。「我孫子の文化を守る会」の三谷和夫会長からは、素晴らしい短歌を頂きました。[街の写真を電線除きしと並べ見れば 透きたる空の高くひろがる]

そう、正に「見上げてごらん我孫子の空を」でした。

この企画は、景観づくりシンポジウムに引き続き、昔の写真のアルバム化を進める「みんなのアルバム同好会」の多大なるご協力を得て、実現しました。広く、昔の我孫子の貴重な写真が、蔵から、抽斗の奥から出てきて、今に生きる私達を快適景観の世界に導いてくれることを、切に願うものです。

当企画は、今後も色々な場で、展開していきます。乞うご期待。

## 「日立総合経営研修所一般公開」を終えて

保田 稔司(会員)

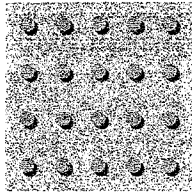
昨年11月30日(土)我孫子中学の前にある日立総合経営研修所の庭園を当会主催で一般公開しました。市民に対しては、初めての公開だったのか、また天気にも恵まれ、10時入場開始であるにも拘らず、9時過ぎから皆さんがこられて、9時半には急遽受付開始をせざるをえませんでした。当初200人くらいの方が来られるだろうと予測していましたが、わずか30分でこれをオーバーしてしまい、用意していた資料や庭内地図もすぐになくなってしまって、コピーが追いつかない状態でした。最終的な入場者数は把握できませんでしたが、確実に2000人は超えたと思います。

ミニコミ紙にもこの催しを載せていただいたの

で、遠く船橋や利根町からも来られ、驚きました。

事前に駐車は出来ない旨お知らせしたが、近くの住宅地の道路に駐車する方が、あとをたたく住民にご迷惑をかけました。

庭内は、紅葉も始まり、観月亭から見る手賀沼は予想にたがわず、素晴らしいものでした。ただカメラ禁止のため、このような素晴らしい庭園を見学できるのだから記念にと思われるのも事実で、手賀沼の風景や、樹齢何百年という樹木を撮影したかったという声が多数ありました。しかし、「とても素晴らしい」「四季折々に見せてもらいたい」など大好評で、私たちも開催しがいがあったと思いました。



## 「景観を守る人々」～インタビュー～景観賞の「かじ池亭」のオーナー 渡辺照夫さん



—この辺は昔は全部田圃だったんでしょね

—そうです。私はここ、下ヶ戸の生まれで育ちました。ゴルフの青木功とは隣どうし、夏休みにはお互い、ガキ大将になってここで遊んだものです。泳ぎを覚えたのもこの池でした。

—それにしても青木は世界一になりましたネー

—当時の我孫子中学の教頭がえらかった。ゴルフ場でお客さん大勢入ってキャデーが足りなくなると、アルバイトを頼みにくる。普通の先生なら勉強一点ばりに外には出さないものを、青木や鷹巣などゴルフの素質を見抜いていて授業などいいから行けと行って出してくれた。

—それが今の青木や、鷹巣が育った源だと思えますよ。今ではとても考えられない。

—この店の前身は6号国道にあった「れすとらん・かあちゃん」と聞いていますが

—そうです。私の父親は商いには全く興味がなく、あの店もおふくろと私でやりました。ただ父は、植木が大好きで、自然の緑が大好きだった。その頃、ここは釣りのメッカだったのです。

—大勢の人が集まり、場所を取るのが大変でした。ある時は傷害事件まで起こしてしまい、おやじに何とか整理をするように言われたのです。

—6号線の方をやめてこっちに来られたのですか

—一週間ほど休みました。両方やることも出来ず、こっちははじめました。なんの看板も立てず、開店の披露もしないで、普通なら間屋さんやお客さんが花輪やお祝いにつめかけるのでしょうが私はそういうのが好きではないのです。今でも看板は出していません。

—「かあちゃん」の建築もいいデザインだったと思えますが・・・

—あれは上高地の帝国ホテルをまねて造ったのです。私は山が大好きで今でもよく登っていますが、あの上高地の帝国ホテルは、我孫子のゴルフ倶楽部の初代のクラブハウスを設計したレイモンドが建てたものなのです。私は棟梁を上高地まで連れて行って、帝国ホテルをよく見せてそして設計してもらったのです。今のこの「かじ池亭」もそれにやや似ていますが、その棟梁の息子がつくりました。屋根の色には苦労したのです。上高地では赤い屋根の色が環境省にいられているようですか、1メートルから見る色ですよ。

—ここの屋根の色も考えに考えてこの色になりましたが、量一量の現物のサンプルを置いて遠くから見て決めたものです。

—広いきれいなお庭ですが、レストランに入らなければ入れませんか

—いやいや、それが誤解されるのです。世の中いろいろ変わってもここだけは、雲も、空も、風も変わらない。この自然を残してくれ

というのが先代の遺言です。皆に楽しんでもらいたいのです。駐車場は限りがありますが、いつでもご自由に散策していただいて結構です。

—でも手入れが大変でしょう

—私は木が好きですから、毎日外にでて何かやっているのです。今度こんな名札を木につけようと思います。皆さん木の名前を知りたがる。木の札をつけてみましたが、すぐだめになってしまう。派手なデザインではなく、やってみようと思っています。

—この池の水は湧き水ですか。

—この辺の池は全部湧き水です。ここもたえず、5メートル以上の水位を保っている。いまのNECの中にある池と、この辺に5つの池があった。それが水路で結ばれていて、古利根に入り、利根川に流れた。昭和5年に堤防が出来たのですが、水の流れは変わらない。それで農家は田圃を作ってきたのだが、今は水路はありません。

—ここの風景は毎日見ても飽きない風景ですが・・・

—風景は毎日変わります。特にすばらしいのは、虹です。5月の田植えのころ、雨が止んで日がさす。すると虹が出る。それは大きな虹です。利根川から手賀沼まで渡れそうな虹の橋ができます。是非一度見にきてもらいたいものです。それから春になると霧が出ます。それがかじ池全部にたちこめてそれはきれいな光景です。湯布院よりもきれいかもしれません。

—もう一つ、お月様。満月の時、池に映るお月様は大変幻想的です。

—「かじ池」の名前の由来をお聞きたい。

—ここは昔、鍛冶屋敷といわれていました。鍛冶やがいて、鍬や鎌などの農具を作っていたそうです。しかしそれは表のことで、やっているのは、会津の落ち武者などが刀を作って、何時か機会を見つけて、復しゅう、仕返しを企てていたという伝説がありました。それで「かじ池」という名がついたようです。

—これだけのものを維持されるのには並々ならぬご苦労ですが・・・

—人間の自然への憧れは誰にでもあるものです。殺伐としたこの世の中でも、昔と何も変わらない、雲と空と風を味わって欲しいと思います。でも自然へのルールは守って欲しい。

—何時になってもごみは捨てられます。ごみは必ず持ち帰ってもらいたい。自然は出来るだけそのままにしておきたいのですが、危険な場所も多くあります。子供さんを連れてこられるなら、その監督は保護者がしっかり見て欲しいものです。人間が自然とゆっくり付き合うために、ペットの持ち込みはおことわりします。せっかく良い気分できているところがだいなしになってしまうこともありますから。

—大変楽しいお話をありがとうございました。

(富樫 道廣)

